VOL.19(6/23 号)

富山市立学校 新型コロナウイルス感染症対策検討会議だより

新たな感染症とともに

マスク依存… 我々大人がすべきこと

先日、政府は、子どものマスクの着用について方針を示しました。しかし、指示があっても子どもたちはマスクを外せなくなっています。感染対策だ、と社会から強い言葉で責められ続け、マスクをしている方が安心できる「マスク依存」になりかけています。とても危険なサインです。

本号では最新のマスクに関する情報を載せています。ぜひご家庭でも適切なマスク着脱について話し合ってください。コロナ禍が続き、子どもたちの体力は低下しており、不安な気持ちを抱えたままの子どもが多くなっています。我々大人がすべきことをともに考えていきましょう。

まずはマスクを外して登下校するよう、ご家族からも声がけをお願いできればと思います。

富山市立学校新型コロナウイルス感染症対策会議
座長　種市 尋宙

子どもたちにとってのマスクとは… ～感染予防効果は 23％!?～

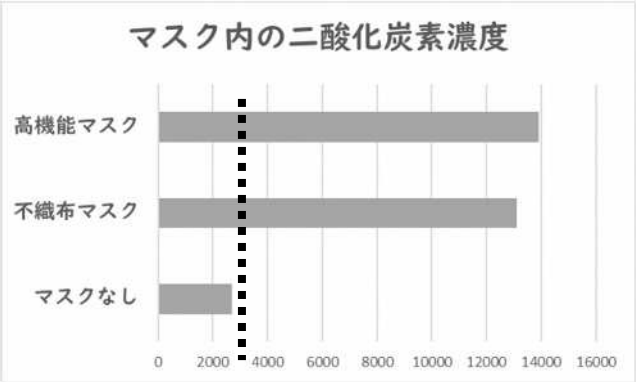
米国の研究では、学校において教師も生徒も全員がマスクを着用することで得られる感染予防効果は、それを行っていない学校と比較して 23%であり、低学年になるほど教師・生徒のマスクによる感染予防効果は低下していました。さらに、子どもたちのワクチン接種率が 30%未満の状況ではマスク着用の効果が示されなかったという研究結果が報告されています。その他にも、幼児においてはマスク着用で表情の読み取りが学習できなくなる弊害を示す研究報告もあります。

また、我々検討会議医療班の研究においては、未就学児（3 歳～5 歳）はマスクが適切に着用できておらず、逆にマスクを頻回に触ることで感染リスク増加が疑われる結果もありました。

マスクはあくまで感染予防対策の一つであり、年齢によってもその効果やリスクは様々ですので、着用させるべきかどうか、よく考えて判断しなくてはいけません。感染状況、気象条件などを勘案し、バランスをもって対応していくよう子どもたちのサポートをお願いします。

マスクの中の二酸化炭素濃度 ～子どもたちの許容範囲を超えている～

5 月に報告された最新情報です。ドイツの研究では、人間が呼吸をして吐き出す二酸化炭素の濃度に注目し、6～17 歳の子どもたち 45 人を対象に、マスクの中にたまった二酸化炭素濃度を測定したところ、子どもにとって「許容できないレベル」の二酸化炭素濃度（約 6 倍）が検出されたと報告されました（Environmental Research　2022）。



高い濃度の二酸化炭素を呼吸で取り込むことの影響について、認知機能を低下させるという研究報告がすでに複数存在します。また、頭痛や倦怠感などが増加することも報告されています。運動中はより一層高い濃度になっていると考えられ、危険性はさらに高まります。（図の点線は許容範囲レベルを示しています）

外でもマスクを着用して活動しているので、熱中症が心配です

全国的に、熱中症の児童生徒が救急搬送される事案が確認されています(下表)。コロナ禍の影響で子どもたちの体力は低下しており、熱中症のリスクがさらに高くなっている緊急事態です。熱中症は、生命に関わる重大な病気であり、数時間で生命危機に陥ります。周囲の大人が、子どもたちに対して、その危険性を伝え、熱中症による事故を防がなくてはいけません。登下校時、体育の時間、運動時には、マスクを外すように大人が積極的に声をかけ、自ら範を示していきましょう。

〈令和４年６月の学校関連の集団熱中症〉

都道府県	日付	人数	概要	場所
大阪府	６月２日	中学・高校生 25 人	体育大会を実施していた	グラウンド
兵庫県	６月９日	高校生 ９人	体育の授業で長距離走をしていた	グラウンド
福井県	６月 17 日	小学生 20 人	学校周辺で課外活動中	屋外
東京都	６月 17 日	小学生 ６人	体育館で体育の授業をしていた	体育館
岐阜県	６月 20 日	中学生 ６人	マスクをつけてダンスの授業	屋内
千葉県	６月 20 日	小学生 12 人	体育の授業でシャトルラン	体育館

登下校時にマスクを外すと濃厚接触者にされてしまう!?

令和４年６月 20 日付けで、厚生労働省から事務連絡が発出されました。そこには、濃厚接触者の特定要件の一つに、「手で触れることができる距離（目安として１m）において、必要な感染予防策なしで、患者と 15 分以上の接触があった者」があるが、「マスクを着用していないことのみをもって一律に濃厚接触者と特定するのではない」ということが記載されています。

富山市保健所と富山市教育委員会では、国の指針に従い、上記に準じて対応していますので、登下校時にマスクを外しただけでは濃厚接触者にはなりません。

富山における小児の医療提供体制はどうなっていますか？

オミクロン株の流行で子どもたちの感染者が急増しました。デルタ株の時でさえ、子どもたちの受診先が決まらない事態が起こっていたので、パニック状態に陥ってもおかしくない状況でしたが、その状況に、富山市では多くの医療機関やクリニックが立ち上がりました。そして、小児の無症状や軽症例は、クリニックで対応するシステムが確立しました。さらに、基礎疾患やリスクのある子どもたちは、指定病院で重点的に管理されるようになっています。

県内では小児コロナ重症患者の発生は、まだ１例もありませんが、万が一に備え、臨機応変に対応する準備を整えています。その間に、コロナではない重症小児患者も少なからず入院していますが、コロナ禍前と変わらないレベルで対応できています。これからも様々な状況を想定しつつ、富山の子どもたちとそのご家族が安心して生活できる環境を守っていきます。

これまでに発行したリーフレットは、市学校保健課、各学校(園)のＨＰで見ることができます。
リーフレットの内容については、必要に応じて改定することもあります。

【事務局】富山市教育委員会　学校保健課(TEL　443-2136)